

12/21 (日)

人間の弱さと神の慰め

コリントの信徒への手紙Ⅱ 七章5～16節

マケドニアに着いたとき、私たちの身には全く安らぎがなく、さまざまな苦しみに遭っていました。……内には恐れがあつたのです。しかし、氣落ちした者を慰めてくださる神は……。 (5、6)

パウロがマケドニアに着いた時には心身ともに疲れ切っており、不安と恐れにさいなまれていたと告白します。けれどもそれゆえに、ただ神にだけ望みを置くことを学びました。心配していたテトスが無事パウロのもとに到着したことにより、彼は大いに慰められました。テトスがもたらしたコリント教会に関する吉報に、「氣落ちした者を慰めてくださる神は」と言って喜びました。「テトスが慰めてくれた」というのではなく、人を通して神が慰めてくださったというのです。神は今も、私たちの周りにいる人々を通して、起こってくる様々な出来事を通して、不安と恐れの中にいる私たちを慰めてくださいます。私たち信仰者は身近な出来事の中に、神の慰めを見いだすのです。今、恐れと不安のために氣落ちしている人はいませんか。慰めの神が私たちにも与えられているではありませんか。